



みよし剛史



塩沢みつえ

発行：日本共産党
福山市議会議員団
津之郷町津之郷 970-1
084-952-2662

リサイクル工場で大規模火災

被害調査に半年で3億円

市議団が現地調査 被害状況を視察

埋立地に仮置き 手作業で仕分け

みよし剛史・塩沢みつえ両市議は11月2日発生したりサイクル工場(箕沖町)の火災による被害状況を視察しました。

ピットからの出火で制御室にまで延焼しており、甚大な被害のため、早期復旧は見込めない状況です。



火災で焼け落ちたダクト・クレーン (市資料より)



作業員がごみの仕分け作業を行う

操作停止の間は、回収された粗大ごみを箕沖埋立地に仮置きし、自転車等のスチール類、小型家電、電池、プラや木などの可燃粗大ごみ、陶器・ガラスなどの埋立ごみに手作業で分別する作業が行われています。

しかし、重量物の多い粗大ごみの分別は時間がかかるため、今後埋立地を整理し、仮置き場の敷地を拡大させていく予定です。

小家電を別回収 再発防止で変更

出火の原因は特定できていないものの、発火源として、充電式電池に使われるリチウムイオン電池やライター、スプレー缶などが考えられています。

事故の再発防止策として、12月から充電式電池の取り外せない小型家電については、燃やせる粗大ごみの日に分別して回収する方法に変更しています。

調査に多額の費用 復旧までは長期間

12月議会での補正予算にリサイクル工場の被害状況を調査するための予算が計上されました。

費用は3億5000万円で、調査業務は6カ月間に及ぶことが想定されていますが、市は工場を設計・施工・管理運営まで一体的に行う事業者の関連会社に調査業務を任せる考えです。

みよし市議は、事故の検証が無いまま、施設管理者と同一の企業グループに請け負わせることは透明性確保の観点から問題があり、まずは原因究明の徹底や、事故検証に基づいた再発防止の徹底が必要である事を指摘しました。

また、工場の復旧まで必要な期間は不明ですが、相当の時間を要することは間違いないため、分別作業環境の安全配慮や、長期の業務継続計画が必要です。

南口・エレベーター設置を

赤坂駅の改善に要望書

エレベーター案

次年度に向け協議

16日、赤坂駅周辺の住民有志による赤坂駅の設備の改善を求める要望書が市に提出されました。都市部長、都市交通課長が対応し、みよし市議が同席しました。

要望書では、赤坂駅へのエレベーターの設置、南口の開設の2点が要望事項として挙げられています。

赤坂駅は一日あたりの利用者数が3千人を超えており、国が定める「バリアフリー化法」でエレベーターの設置義務に該当する駅です。

20年の一般質問で当時の高木市議がこの状況を質し、市当局はJRと協議中であると答えていましたが、現在でも設置に至っていません。現在の進捗については市は、「23年に再度JRと協議し、来年度には設置案が明らか



要望書を市当局に提出する住民有志の会

になる見通し」であること を明らかにしましたが、整備工事には少なくとも4年程度の期間も要するとの説明がありました。一刻も早い整備が求められます。

また、駅南側では宅地化が進んでおり、「利便性向上のためにも南口の開設が住民の大きな要望となっている」との意見に対し、市は「南口開設には用地取得と費用が必要」と課題を示しつつ、地域活性化のためには、赤坂駅のさらなる利便性の向上が必要であるとの認識を示しました。